

鉄道のあるまち・暮らし (全2回)

— 学生の室蘭線利用 —



▲ 室蘭線路線図 (沼ノ端駅～岩見沢駅が黄色線区)

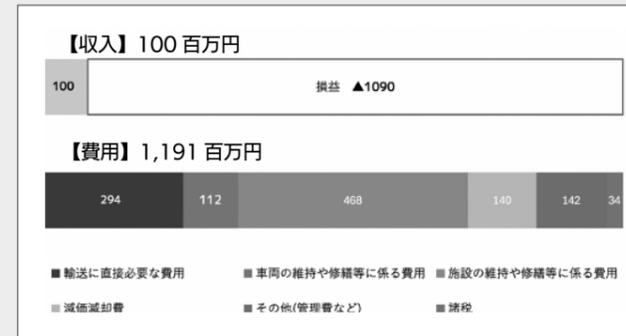
平成28年11月にJR北海道が「自社単独では維持することが困難な線区」を発表。町内の4駅が属している室蘭線の一部区間、沼ノ端駅～岩見沢駅間もその一つ(黄色線区)。この区間の令和5年度収支状況(左図)を見ると、損益が約10億9,000万円となっていて、依然として厳しい経営状況が続いています。

道内では今年に入り、赤色線区となっていた根室線の一部区間(新得駅～富良野駅間)が3月31日に廃止され、翌4月1日からバスによる代替輸送に切り替えられました。また、石勝線の滝ノ上駅が3月に廃止、室蘭線(室蘭支線)の室蘭駅が10月から無人

駅になるなど、規模縮小の波が押し寄せてきています。

鉄道の規模縮小によって代替輸送を多く担っているのがバス。最近では、「2024年問題」やドライバー不足の影響で、バスの減便、路線廃止となる事態に。安易にバスへの代替が可能とは言えない状況にあります。

室蘭線は、乗客の多くを学生が占め、通院や買い物など生活に密着している「生活路線」。今回は、室蘭線を通学で利用する生徒やその家族、通学先となっている学校に、利用状況などそれぞれの目線での取材を行いました。



▲ 令和5年度 室蘭線 (沼ノ端駅～岩見沢間) 収支状況 [単位:百万円]
※端数処理のため合計値が合わない場合があります。

2 町内外から通学 追分高等学校の目線で見ると「室蘭線」

北海道追分高等学校 庄司校長

室蘭線利用の通学者が今年度は22名で、全生徒の約4割を占めています。当校では、列車通学の生徒が安心安全に通えるよう、「列車通学生の会」で乗車時のマナーなどを実地で学ぶ機会を創出。また、列車通学者の一部も参加する「清掃ボランティアの会」では、通学路や駅周辺を年1回清掃。授業の地域探究授業「地学協働」の一環で「道の駅あびらD51ステーション」で追分駅や室蘭線などについて学ぶなど、地域との関わりだけでなく、安平町への興味や関心を高めています。

町から当校へ就学費援助など多くの支援をいただいておりますが、その1つがJR利用通学者への定期代金全額援助。令和5年度から対象生徒全員が全額援助となりました。

生徒が増えた背景として、苫小牧市内の中学校で当校の教育方針に理解を示してくださり、先生方から進学先として生徒に勧めていただくことが増えてきたという点もあります。今年度、沼ノ端駅から通学する生徒が12名入学したことからわかるように、室蘭線は当校にとって重要で必要な鉄道路線。町外から通学する生徒が多く利用している室蘭線が廃止になると、当校の存続が厳しい状況になると思います。

北海道追分高等学校

昭和24年に北海道立苫小牧高等学校追分分校(定時制)として開校し、昭和26年に独立。少人数制ならではの一人ひとりの生徒に合わせた指導や地域との交流、特色ある授業などが行われており、近年注目を集めている。今年度は33名が入学し、昨年度の16名を大きく上回った。

	室蘭線					石勝線
	早来駅	沼ノ端駅	苫小牧駅	青葉駅	小計	
令和5年度	1	4	7	2	14	22
令和6年度	3	12	5	2	22	25

参考：令和5年度 全生徒数 48名
令和6年度 全生徒数 58名

▲ 追分高校 室蘭線・石勝線利用の通学生徒数 [単位:人]

3 町外から町内へ通学 生徒の目線で見ると「室蘭線」



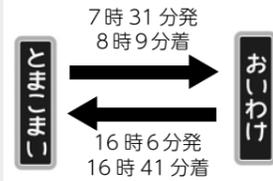
▲ 三富 涼龍くん(写真左) 佐久間 龍聖くん(写真右)

三富 涼龍くん (1年生 苫小牧市在住)

親や担任のアドバイスから追分高校を選び、他校は選択肢として考えていませんでした。室蘭線がなかったら追分高校ではなく他校を選択していたかどうか、正直想像が付きません。

室蘭線通学のメリットは通学時も友人も一緒なので、いろんな話ができる。少しでも多く友人と過ごせて楽しいです。デメリットは、天候などで運休してしまうことがあり、その場合は学校に行けないこと。帰宅時、いつもの列車に間に合わず、次の列車になることがあるのですが、約1時間後なので苦ではなく、むしろ友人と話せる時間が増えて嬉しいです。

【乗車スケジュール】



佐久間 龍聖くん (1年生 苫小牧市在住)

少人数で先生や他の生徒と深く接することができるので、追分高校を選びました。室蘭線通学のメリットは乗り換えがなくて楽なこと。デメリットは、列車が1両なので、たまに観光客が多くて座れないことがあります。定期券は通学時のみの使用で、休日に利用することはほとんどなく、入学してから今まで2回だけでした。

室蘭線がなくなったらどうなるのか今は想像できないですが、苫小牧市内から追分地区までの路線バスがないので、通学は室蘭線に乗りするしか方法がありません。

【乗車スケジュール】



室蘭線は現時点では廃止になることはありません。路線の維持や利用促進を進めるため、室蘭線沿線の5市町とJR北海道はさまざまな取り組みを継続的に進めています。

130年以上の歴史がある室蘭線。この路線を守ることは、これまでの歴史を守るということだけでなく、地域や生活を守ることもつながっているということを取材を通して改めて感じました。「あって当たり前」だったものが「なくなるかもしれない」という状況に陥っている今、室蘭線が地域になくしてはならないと再認識し、他人事ではなく自分事として一度考えてみていただきたいです。

取材：木下 知佳(元地域おこし協力隊)

問合せ(安平町の公共交通相談窓口) 政策推進課政策推進グループ ☎ 2751

1 町内から町外へ通学 親の目線で見ると「室蘭線」

「苫小牧工業高等専門学校」に通うお子さんの父親

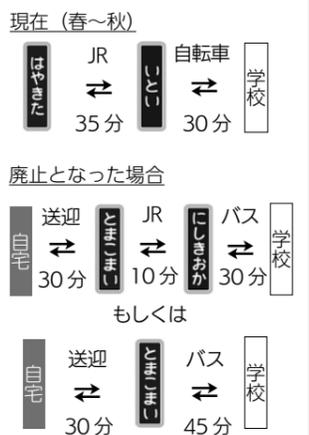
通常、春から秋にかけては室蘭線(早来駅～糸井駅)と自転車で、天候が悪い日や冬は室蘭線(早来駅～錦岡駅)と路線バスで通学しています。

室蘭線通学のメリットは、悪天時もある程度安全に通学でき、長距離の自転車通学よりも身の安全が確保されること。デメリットとしては列車の本数が少ないため、行事(学校祭など)や部活動(主に大会)のようなイレギュラーな時間帯は、親の送迎が必要になってしまうことも。

定期券代がバス運賃の値上げで高額となっていますが、来年4月からはJR運賃も値上げとなる見込みで、より家計が圧迫されることになりそうです。

そんな状況ではありますが、室蘭線は苫小牧方面への通学には必要不可欠な路線。無くなると苫小牧方面へ毎日の送迎が必要となり、送迎がないと通学できなくなります。場合によっては通学できないために行きたい高校を諦める、または学校の近くへ引っ越さざるを得ないことに。移住施策に力を入れている安平町ですが、通いたい学校に通えないとなると、移住先の候補から外れることも考えられると思います。

【想定される通学経路の変化】



※所要時間は目安。
※乗り継ぎの待ち時間を除く。